

【協働の評価】

<p>協働で進めて いきたい理由</p>	<p>役割分担を相互に共有、実施することで、市は幅広い告知や、関係各所との連携を迅速に実施、運営者は事業内容の充実、現場のニーズを捉え、実現、実施可能となっている。今後も課題を共有し、互いに課題解決に取り組んでいきたい為。</p>
<p>協働の 成果・効果</p>	<p>【協働の成果目標】 子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる遊び場の提供及び自然遊びの情報発信を行うことのほか、子育てに関する情報提供や、子育て中の親子に対する支援を地域団体等と協働で実施することにより、地域の交流や多世代交流の活性化を図ること。</p> <p>【達成できた点】 コロナ渦においても昨年度に比べ、イベント実施回数及び夏休み期間中の開所日数の増加により、来館者数が1.2倍程度増加した。広報や市の公式LINE、春夏秋にかけてチラシを発行するなど、積極的な周知活動が実を結ぶ結果となった。</p> <p>【達成できなかった点】 ・未就学児の利用が横ばいであった要因として、あらたな親子や幼稚園・保育園への周知が少なくなったこと、また駐車場がない関係で、繰り返しの利用につながりにくかったのではないかと感じる。 ・出張冒険遊び場の参加人数が想定以上の来場者となり、密になってしまったり、待たせてしまう回があったため、大人数でもできる遊びや、宣伝方法、受付の仕組み等、検討すべき項目があったように感じる。</p>
<p>相互評価</p> <p>※上手くいったこと 問題点・課題など</p>	<p>【事業実施前】 ★3 ○市 令和3年度に共有した課題及び成果を踏まえて、令和4年度の課題を「地域交流、多世代交流の活性化」・「深沢以外の冒険遊び場開催」・「来所者ニーズの拾い上げ」とし、共有した。 ○団体 令和3年度事業成果と課題項目を上げ、令和4年度の課題として以下3点を挙げた ・地域交流、多世代交流の活性化 ・深沢以外の冒険遊び場開催 ・来所者ニーズの拾い上げ 上記を令和4年度の課題とし、取り組み項目を共有した。</p> <p>【事業実施中】 ★4 ○市 随時状況を共有しながら、役割分担に基づき、事業を進めることができた。広報活動として、市の公式LINEによる定期的な情報配信を実施したほか、チラシを全小学校、保育園並びに幼稚園などの子育て関連施設へ配布し、周知を図った。出張冒険遊び場の実施にあたり、みどり公園課や各消防署と連携を行った。協働事業推進委員会への報告にあたっては、利用者数や事業の費用についてのほか、課題である「午前中の利用者数の増加」・「地域・多世代交流の活性化」・「冒険遊び場事業の周知」について報告した。 ○団体 地域住民をスタッフ・ボランティアとして起用、地域イベントで企画から参加してもらいなどして地域交流を行った。また深沢支援センターとの連携をとり、子育て親子への受け皿としての周知を行った。 広報活動として、支援課を通して定期的なLINE配信を依頼。チラシを全小学校、保育園並びに幼稚園への配布を行った。 市内4か所での出張冒険遊び場を開催。地域の方々にスタッフ参加や端材提供など声掛けし参加頂いた。 アンケートを実施し、期間ごとに集計を行い、実施可能項目については随時取り組</p>

	<p>んだ。また1月に行われた協働事業推進委員会報告会にて、これまでの集計を報告した。</p> <p>【事業終了時】 ★5</p> <p>○市 コロナ禍における事業実施であったが、昨年度に比べ、イベント実施回数の増加や夏休み期間での木曜日開所により、遊び場の利用人数は増加した。出張冒険遊び場では地域住民・地元工務店の協力を得られながら、子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる場とすることができ、参加者数も増加した。引き続き、広報やSNS等を活用しながら周知活動を行い、事業の継続を図りたい。</p> <p>○団体 地域交流として、乳幼児親子から、小学中学生の利用、ボランティアとして高校生の参加、その他ボランティアの大人の方々に参加頂き、広い年代の方に鎌倉冒険遊び場を知ってもらい参加してもらえた1年となった。出張冒険遊び場では地域の方にスタッフやボランティアに参加頂いた。また地元の工務店などに声掛けし、端材提供を頂くなど、地域の方々と冒険遊び場を開催することができた年であった。 コロナ禍であったが、遊び場の利用人数は増加し、出張冒険遊び場の参加者数も増加し、のびのびと遊べる遊び場づくりが実施できた。 遊び場ではアンケートを実施し、来場者のニーズを拾うことができた。また来場者には小学生・中学生が多いため、今後も子どもの声を聞く取り組みをし、市が捉えている課題について把握していきたい。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>「地域に根ざした遊び場、年齢に切れ目のない、だれでも利用できる居場所づくり」を行う。 幼児（未就学児）から小中高校生まで子育て情報の連携・交換の場が必要と考え、遊び場に機能を持たせ、地域で子育てできる場の一つとして、遊び場の充実を図る。 必要に応じて、青少年課など他課とも話し合いの場をもち、随時課題共有を行う。今後も引き続き、遊び場梶原の開館日数、出張冒険遊び場 回数の増加に向けて検討を行う。</p>